広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語と朝鮮語の指示詞について ： その類似点と差異点
Author(s)	深見，兼孝
Citation	ニダバ , 10 : 32 - 32
Issue Date	1981-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00044721
Right	
Relation	

研究発表要旨

日本語と朝鮮語の指示詞について ——その類似点と差異点

深　見　兼　孝

日本語に3系列の指示詞が認められるように，朝鮮語にも3系列の指示詞が認められる。指示詞の体系を支えているのは，発話主体による場面の心理的区分であると考えられる。両言語の指示詞は，現象面での著しい平行性にもかかわらず，体系において基本的な差が存在しているように思える。現代短編小説とその翻訳を比較しつつ，日本語と朝鮮語の指示詞の体系的特徴について議論する。

指示詞の現われる文脈から，指示物が実際の場面に存在する場合（現場指示）とそうでない場合（非現場指示）について，話し手，聞き手，指示物の距離関係を抽出し，その時の指示詞の系列と照合することによって，場面区分の方法と指示詞の系列の対応関係を求めれば，次の2点を際立たせることができる：1)現場指示では，場面の区分の方法と指示詞の系列の対応は両言語間で平行しているにもかかわらず，話し手と聞き手を中心とした2極分割は朝鮮語において限定的であり，話し手を中心とした同心円的分割は朝鮮語において自由である。2)朝鮮語における同心円的分割について，現場指示と非現場指示で，話し手の領域外に対応する指示詞の系列が異なる傾向があるが，その本質は等価であり，しかも，その一方は2極分割の際の聞き手の領域に対応する。

2つの場面区分の方法に注目して，日本語の指示詞の体系を2重体系と言うならば，朝鮮語の指示詞の体系は，むしろ1重体系的色彩が濃い。

（広島大学大学院生）